

若手の機会拡充に重点

文科省概算要求5兆9351億円

文科省の30年度予算概算要求の概要が明らかになった。一般会計は、対前年度比11・8％(6兆9351億円)増の5兆9351億円。そのうち科学技術関係は、兆も800億円と対前年度比20・6％増の2兆4600億円増の1兆24600億円を要求。科研費制度の基幹である基礎研究種目群を中心とした助成水準の向上を図る中で、若手研究者に対する支援を強化する。基礎研究B・C、若手研究の新規採択率について、政策目標の30％の達成を目指す。

科学研究補助金は、1兆24600億円増の2兆4600億円を要求。科研費制度の基幹である基礎研究種目群を中心とした助成水準の向上を図る中で、若手研究者に対する支援を強化する。基礎研究B・C、若手研究の新規採択率について、政策目標の30％の達成を目指す。

世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)は12億円増の82億円。目に見えない国際研究拠点の充実・強化を図るとともに、拠点関連系の強化やシステム改革成果の横展開を図る。研究大学強化促進事業は前年と同額の50億円。戦略的創造研究推進事業(新技術シブプロジェクト)は21億円増の455億円。先端研究基盤共用促進事業は0・5億円減の15・5億円。

今回、新たなプロジェクトとして立ち上げるのは、材料の社会実装に向けたアロセサイエンス構築事業(Materializeプロジェクト)12億円。大

学・国立研究開発法人等において、産学官が連携した体制を構築し、マテリアル(物質・材料・デバイス)を作り上げていく。それぞれの工程で生じる諸現象を科学的に解明し、その制御技術からプロセス設計まで一貫通貫で取り組むことで、マテリアルを社会実装につなげるプロセスサイエンスの構築を目指す。

内閣府のPRISMやSIPに関連するプロジェクトとしては、革新的材料開発力強化プログラム(Mキープ)58億円、34億円増、光・量子情報プラットフォームプログラム(オーグシンプログラム)91億円、26億円(4億円増)、AIPプロジェクト90億円(5億円増)など、それぞれ増額要求している。

国立大学の運営費交付金は3016億円増の1兆1286億円を計上した。

科学技術は1兆1680億円
 科研費183億円増